

# 声を掛けると仲間が増える！！

## 100名の新しい仲間を迎える取り組みをすすめてよう！！



「仲間づくり」 推進本部長・木村 泉

仲間づくり大運動は、第3回理事会（1/29）で提案・討議され、活動交流集会（3/5）で意思統一されました。内容は、「大会までに100名の新しい仲間を迎え入れよう」です。「入会のお誘い」（ご一緒に平和を考え、運動をしてみませんか！）「平和委員会のしおり」および「入会申込書」の3点セットを仲間づくりや宣伝に活用して下さい。

- (1) 2月中に、話し合いを行ない、仲間づくり推進委員をつくる。推進委員をどれくらい作り出せるか、が勝負の別れ目です。
- (2) 3月中に、推進委員を中心に、迎えたい人の名を具体的に挙げる。  
誰が誰に、どう声を掛けるか、働きかけの手だてを決めよう。
- (3) 4月から具体的行動に入り、5月の連休明けから大会に向け、取り組みを一気に進める。3段ロケット方式です。

しかし、3月11日に東日本大震災が発生、大きな被害を受けた会員もいます。福島では原発の重大なトラブルが発生しました。そのような中、会員の多くは、仲間の被害確認と復興支援に飛び回りました。組織を挙げた仲間づくりの取り組みが非常に難しくなりました。「それどころではない」という状況で、4月後半になり、大会まであと1ヶ月半です。

この間、1月からの仲間づくりでは、阿見町・守谷市・石岡市・鹿嶋市・取手市・稲敷市・つくば市・小見玉市の各平和委員会で、新しい新しい仲間を迎え入れています。

また、その他の平和委員会でも計画をつくり、動き始めています。計画を未だ立ててないところは、検討を急いで下さい。

新しい仲間を迎えるに必要な共通な取り組みは「推進委員を中心に」「呼び掛けをする」ことに尽きます。大会まであと1ヶ月半です。

- (1) 連休前に会議を開き、仲間づくりについて、打ち合わせをしましょう。
- (2) 連休明けには、一気に声をかけましょう。
- (3) 第6回常任委員会（5/13）には取り組みの経験を持ち寄りましょう。

4・5月の期間を全会員が運動に参加すれば、壮大な取り組みとなります。各平和の会・平和委員会で平均3名の新しい仲間を迎えれば、全体で100人を越えます。やることをやり切つて、6月の大会には、今までにも増して元気な声を持ちましょう。

推進本部では、各平和の会・平和委員会と連絡を取り、支援を強化します。副本部長の水野代表理事は週2日本部に詰めて取り組みます。また、伊達代表理事も一緒に支援に入ります。かわら版では、各地のとりくみを報告します。平和委員会の全組織を挙げたとりくみにふさわしい運動を展開しましょう。

## 5月3日の憲法記念日は、水戸駅で宣伝行動を！

### 今年の憲法フェスティバルは中止に

2011年憲法フェスティバルは実施しないことを、4月10日の実行委員会で決定しました。昨年11月から準備を進め、ポスターやチラシの印刷も済み、100人以上の賛助金集約も進んでいる中、苦渋の決断でした。

「こんな時だからこそその声も多い・・・」「テーマを工夫すれば・・・」「時期を延ばして・・・」等の声もありましたが、「原発事故が収束しない。長時間の屋外の集会は安全か」「ライフライン復旧の遅れや震災復興支援で準備は困難」「屋内開催は会場確保が困難」等の意見が多く出されました。

結論は、現在の多くの市民の関心・問題意識とギャップが生じると考えられることや物理的にも困難ということで、今年度は

中止という結論に至りました。

一方、大震災が原因の中止であればこそ積極的なアピールが必要という意見や、今年度のテーマ「だまされない！あきらめない！生きさせろ！」は、震災後の今の状況にこそ見合っているという意見も多く出され、水戸駅で宣伝行動を行うこととしました。5月3日（火）、水戸駅の北口・南口の両方で、午後12時から2時まで、30人以上の規模で行います。内容は、「復興支援」「憲法を守れ」を視点としたリレートークとアピール文の配布、義援金の募金、パネル展示等を行います。平和委員会は10名以上の参加者を募ることになりました。

参加可能な方は、11時50分までに水戸駅南口にご参集下さい。（駐車場は近くの有料駐車場等をご利用ください。）



歓迎！新入会員のみなさんです。  
宜しくお願ひします。

藤吉 法子 さん（石岡市）  
加藤 武雄 さん（小美玉市）  
高橋 孝 さん（つくば市）  
川田 弘二 さん（阿見町）  
吉田 正光 さん（鹿嶋市）  
小山 省吾 さん（石岡市）  
鈴木 俊一 さん（小美玉市）  
根本 久雄 さん（石岡市）

（3/25掲載の山口住江さんのお名前を訂正します。）

山口 澄江 さん（稲敷市）

各平和の会（平和委員会）のみなさん一人ひとりの力で、大会までに100名の新しい仲間を迎え入れましょう。

## 平和新聞

2011年4月25日号(月曜日)  
1955号（毎月5,15,25日発行）

1950年12月16日第三種郵便物許可 発行 **日本平和委員会**  
1部140円 月額400円 〒105-0014 東京都港区芝1-4-9平和会館  
(郵送料月額120円) 電話03(3451)6377 FAX03(3451)6277

## 平和かわら版

平和新聞茨城版 No. 593

2011.4/25  
発行：茨城県平和委員会 〒310-0912 水戸市見川5-127-281  
Tel/Fax 029-251-2806 E-mail ibahei@amber.plala.or.jp

## 東日本大地震・体験特集

### 北茨城平和の会・藤田稜威雄さんよりのメール

2011・4・12 (Tue.)

北茨城の藤田です。

かわら版の寄稿、文を作成中に大きな余震が。背中に本、書類が落下。ダンス転倒ほか、今朝方に昨夕の余震で倒れたものを整理したばかりでした。元気なしです。

余震はまだ油断できないようですし、原発もチェルノブイリと同じレベル7との由。レポは、もう少し落ち着いてからにしたい。すみません。今度の災害は、私の人生を問いただす、大げさにいえば哲学的なものを見直しする場になりました。もちろん非戦・九条の会の考えは揺るぎませんが……早く余震が治まり、原発が静まればいいのですが。今また揺れました、今晚も揺れるのかな？

PM 7 : 35です。以上

## 空前の地震に遭遇して

常任理事 柳岡 修二

私は今年度いっぱい44年の勤めに終止符を打った。今年になってからは、それまでの年休をハイペースで取り、地震のあった11日も年休で友部に出かけていた。私は友部中央公民館でのパソコン教室に参加、妻は家でガーデニングを楽しんでいた。この家は以前住んでいて、今は二女の家族が住んでいる。

パソコン教室が始まって間もなく、尋常ではない揺れに襲われた。電灯はすべて消え、柱につかまって立っていた。そのうち治まるだろうと高をくくっていたのも束の間、後から後から余震が続いた。慎重に運転して家に着くと、外には近所の人たちが呆然とした面持ちで佇んでいた。

我が家は大きくグシが崩れ、割れた瓦が地面に散乱。家の中は足の踏み場もなく、約80センチ四方の内壁が三枚も落下、障子はまったく動かない。

その日のうちに八郷に戻ったが、あまりの渋滞に普段の3倍もの時間がかかった。屋根瓦の修理見積もりは84万円なり。その他周囲の片付けが5万円。思いがけぬ出費に頭が痛い。

その後、屋根と内壁の修理は息子が引き受けてくれたので、ほっとした。私の罹災など、三陸沖の津波の被害状況と比べたら物の数ではない。気を取り直して、カンパ5千円を送った。

石岡市の対応は、まったくなくなっていた。避難所として指定されていた小学校は門が閉まっており、止まった特急の乗客が高校の体育館に誘導されたが、ストーブ一台・ラジオ一つ。一人につき毛布1枚が配布されただけ。防災無線はなりを潜め、電気・水道とも止まったのに給水車が来ているのか、またどこにいるのかなど、皆目わからなかった。災対本部も市民から促されてからようやく設置した。それから2、3日後、市庁舎を訪ねた。まず目についたのは、地階で確定申告を受け付けていた。一階の柱の壁はあちこちが剥がれ落ち、階段のところの壁には、ロープが取り付けられてあった。2階にこんな張り紙があった。『床が揺れるので、静かに歩いてください』鉄筋の建物がこんな状態になっているのに、職員は普通に仕事をしていた。3、4階は危険なので1、2階に移ってやっているとのこと。因みに市長はどこにも見えず、議会は八郷庁舎でやっていた。仕事の引越は手間がかかるかも知れないが、人命に拘わることとなれば別だ。

その後の連続した原発事故は、我々庶民にとってまさに『想定外』だった。

息子はこれまで、熱心に農業に取り組んできた。だが、この事故で東京でも水戸でも、定期販売は取りやめになってしまった。農産物はすべて、時季をはずせば一年待たねばならない。丹精こめて作った野菜を、みすみす捨てることほど空しいものはない。食事前の『いただきます。』は、食べ物に対して、『あなたの命をいただきます。』から出た言葉だというのに…。

日本政府の言うことが、ますます信用できなくなった。放射線レベルの危険度についても、どう理解していいのか、判断しにくい。危険度を、過小に見せようとする姿勢がありありと窺える。

儲け過ぎの大企業の内部留保や、東電の大株主のボロ儲けを吐き出させ、濡れ手で粟の政党助成を斬るなら、十分な復興支援ができると思う。原発の危険性は、何度となく指摘されていたにも拘わらず、放置してきた国の責任はあまりにも大きい。

私たち現代人の暮らしは、砂上の楼閣の上に成り立っていたことがしみじみと感じられた。

地震の後は『オール電化』の旗はすっかり消えた。都会での快適な暮らしは、田舎によって支えられていたことが、如実にわかった。

多少不便でも、自己完結型の暮らしに変えていかなければ、人類の本物の幸福は得られないのではないだろうか。

## 【シリーズ】わか街・わか会員

神栖市 / 清水 甚三郎さん



(鹿行平和委員会)



### 【僕の平和運動】

茨城平和委員会に加入させていただき、半年が過ぎました。平和運動というと、僕にあっては、「原水爆禁止平和大行進」です。

青年時代、労働者の街、川崎市で働いていた僕は、この行進には会社を休んで参加したものです。

トランペッター松平晃氏が奏でる、「ふるさとの街焼かれ、身寄りの骨埋めし焼土に……」の歌をうたって行進したことは忘れられません。

そして去年は、鹿行での行進。北海道→東京コースを通し行進された鹿又静子さんに、サインと名刺をいただき、僕の平和運動に新たな歴史を刻むことができました。

15歳から72歳まで、57年間、長きに亘って働いてきた僕は、労働こそ生活であり、労働こそ、平和の担い手であるということ学び取りました。

この客観的な真理を活動に生かして、これからも平和運動に取り組んでいきます。

## 百里平和委員会会長・梅沢 優さんより

### パソコン2台を県平和委員会に寄贈していただきました！

東日本大地震の余波がまだ残っている4月上旬に、百里平和委員会の梅沢優さんが、平和委員会で役立てて欲しいと、IBM製のパソコン2台を携えて、県平和委員会の事務所にきてくれ、あっという間に設置してくれました。ウインドウズXP装備の新品同様の優れものです。

ありがとうございました。